

hello volunteer

hello volunteer

— TSUNAGU —

Fight!

日本全国の
トヨタファンが
味方です!
メダル目指して
ガンバレ!

金メダル目指して
頑張ってください。

本当に勇気もらって
誇りに思います!

最高の
パフォーマンスを
期待します!!

メダル獲得に向け、
日本から応援してます!

大舞台を楽しんでください。
私はその先にある感動を楽しみに
応援いたします。

頑張れ!

これまで積み重ねてきた努力は
必ず結果にでると思います。
自信を持って滑ってきてください。
金銀賞員が応援しています!

日本の代表・トヨタ自動車の
代表として世界で輝いて
きて下さい!!

PASSION!

森井大輝



大手広告代理店でコピーライターやプロデューサーとして活躍する一方、スポーツ弱者でも楽しめる新しいスポーツを創ろうと、志を同じくする仲間たちとともに「世界ゆるスポーツ協会」を立ち上げた澤田智洋さん。「ゆるい」をキーワードにしたその活動は、今多くの人々の共感を呼んでいる。



「ゆるい」をキーワードに、だれもがヒーローになれる社会をめざす

世界ゆるスポーツ協会代表
スポーツクリエイター
福祉クリエイター

澤田 智洋

Tomohiro Sawada

仲間は、ずれをつくらないゆるスポーツ

インドアスポーツとして人気の卓球。でもラケットを見てビックリ！木製部分にはラバーがなく、宇宙とおぼしき写真がプリント、中央には大きな穴が空いている。なにこれ？不良品!? いやいや、これは真正正銘、「世界ゆるスポーツ協会」の競技種目「ブラックホール卓球」のラケットである。

ブラックホールのサイズは、通常のピンポン玉よりひとまわり大きなものから直径10cmを超えるものまで4種類。スイートスポットと呼ばれるラケットの中央に球を当てる訓練を積んだ上級者ほど、空振りするという。見事、ブラックホールに球が吸い込まれようものなら、敵味方関係なく「ナイスホール！」と声をかける。ミスしたはずなのに、何だかほめられたようで嬉しくなってしまう。ゲームを終えるころには全員が仲良くなって互いの健闘

をたたえ合う、なんともゆるくて楽しいスポーツだ。

ゆるスポーツの仕掛け人は澤田智洋さんだ。大手広告代理店に勤務するかたわら2015年4月に「世界ゆるスポーツ協会」を立ち上げ、ブラックホール卓球やハンドソーパボール、イモムシラグビー、ゾンビサッカーなど、これまでに50種目以上のゆるスポーツをプロデュースしてきた。

澤田さんにとって、「ゆるい」は大切なキーワードだ。「ぼくは帰国子女なので、英語に直訳できない日本語に魅力を感じます。ゆるいにはidea(リベラル)やflat(フラット)、open(オープン)など前向きな英単語が10個以上内包されていて、明確に色分けされたカテゴリーの境界線を溶かしていくような働きがあると思います。A、Bどちらかというのではなくて、例えば、与党と野党の間にゆ党もあり、みたいな…」瞳を輝かせ、ユーモアを交えながら語るその口調は、親しみやすさの中に時代を

決めるような鋭さをのぞかせる。

まずは自分貢献から始めよう

「生きる」とは、いろいろなことに貢献することだと思っています。自分の弱みや悩みと向き合い、解決することもある意味、自分への貢献と言えます。澤田さんにとって、多種多様なゆるスポーツのプロデュースは、自分貢献であり、人生のいろいろなストーリーが重なった結果なのだという。

幼い頃からスポーツが大の苦手であったこと。2013年に生まれたお子さんに視覚障がいがあったこと。障がい者は日常的にほとんどスポーツと接する機会がなく、それが原因で肥満や病気になっていると知ったこと。さらにちょうどその頃、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の招致が決定したこと。

「オリ・パラ招致の決定は、ぼくにとって大きなターニングポイントになりました。それまで運動が苦手であることを

隠してきましたが、これを機にぼくのようなスポーツ弱者や目の見えない息子、いろいろな障がいを持った方でも参加できるようなスポーツを、戦略的にイチから創り上げてみようと思ひ、研究を始めた」

世の中には自分と同じような悩みや弱みを抱えた人が大勢いる。自分貢献をすることで、結果的にそうした人たちの課題解決にも役立ち、社会貢献と呼ばれるものへとつながっていく。

澤田さんには多様な友達がいるが、その多くは障がいを持っていたり、社会的に弱い立場の人たちだ。澤田さんにとって友達は宝物だ。「ダイバーシティ」な環境の下では寛容性や柔軟性、優しさや新しい発見、理解が生まれ、それらは自分にフィードバックされます。ですから、ぼくは多様な友達を持つことを、ゆる社会貢献のススメと呼んでいます」

※性別や人種に限らず、年齢・性格・価値観・ライフスタイルなどの多様な違いを受け入れ、生かすこと



2017年、「世界ゆるスポーツ協会」はスポーツを通じた社会貢献が認められ、「HEROs AWARD 2017」を受賞

最大限に生かしながら貢献する。その関係を澤田さんは「B（企業）to O（個人）」と呼んでいる。

社会貢献もポップで楽しく

多才な顔を持つ澤田さんは、漫画を通じて障がい者に対する理解を深めたいと、2016年4月から障がいを持つヒーローが登場する3コマ漫画「ないマン」をWebサイト（<http://cococolor.jp/>）に連載中だ。ストーリーはすべて、澤田さんの友達である障がい者の実体験に基づいている。ピリッと風刺の効いたタッチで現代社会の「コマ」を鋭く

大企業の社員である強みを生かす「B to One」な社会貢献

ゆるスポーツの醍醐味は、年齢やジェンダー、障がいの有無、スポーツの得手不得手に関係なく、だれもが同じ楽しみ方を共有できることだが、二つひとつの種目には、実は競技者として必ず特定の個人を想定してつくられている。ブラックホール卓球は車いすで生活する脳性麻痺の青年が卓球選手に勝てるようにと、試行錯誤の末、ラケットの真ん中をくり抜くことで誕生した。

「ゆるスポーツは多くの人々の協力と時間、体を使った思考が必要不可欠で、まったくもってゆるくない開発プロセスの上に成り立っています」澤田さんは、ゆるスポーツの企画からプロデュースに至るまで、自社の仕事で培ったスキルやノウハウ、人的ネットワークなどをフルに活用している。たとえばブラックホール卓球のラケットには、NASA（アメリカ航空宇宙局）やJAXA（宇宙航空研究開発機構）から提供された本物の宇宙写真が使用されている。キャッチフレーズは「さあ、その手に宇宙を握りしめ、レッツプレイ！」社会的な認知度を上げて世の中にゆるスポーツを普及させるには、ロゴマークやインパクトの強いネーミングなどのイメージ戦略も欠かせない。「従業員一人ひとりを二冊の本とすると、大企業は膨大な知識や経験が詰まった図書館」澤田さんは大企業をこのように評している。「実は広告業界には向いてないな」と思い、転職を考えたことがあるんです。でも、自分のやりたいことさえはつきりしていれば、大手にいるメリットを最大限に生かしてやりたいことができることに気が付きました。個人としての澤田智洋より、大企業の社員としての澤田の方が、友達に対して貢献できる可能性はずっと大きいからです」

個々に向ける視点を大切に、大企業にいるメリットを

切り取る作風は、これまで表に出ることのなかった個々の障がい者が抱える問題を浮き彫りにし、社会のあり方について考えさせてくれる。

「社会貢献だってポップに。ユーモアを大切にしていきたいんです」と澤田さん。ゆるさを武器に、だれもが笑顔で生きている社会をめざして、これからも活動を続けていく。

あなたも、自分や大切な人への貢献から始めてみては？自分自身や家族、友達のために何ができるだろうと思ひ浮かべること。それが社会貢献の第一歩につながるかもしれない。



ゆるスポーツ以外にも、義足女性のファッションショー「切断ヴィーナスショー」のプロデュースや、障がい者の実体験を描いた漫画「ないマン」を連載するなど、澤田さんの活動は多岐にわたる



Profile

澤田 智洋 (さわだ ともひろ)

1981年生まれ。幼少期を海外で過ごした後、17歳の時に帰国。2004年に大手広告代理店に入社。映画「タクシードライバー」の「伝説が、社風に終わる」の「バー」な多岐にわたるクリエイティブを手掛けながら、義足女性のファッションショー「切断ヴィーナスショー」や視覚障がい者用のロボットを開発する「MAGIC STICK PROJECT」など、福祉やスポーツの分野でも数多くの事業をプロデュース。著書に「タメ社員でもいじやない」。障がい者の実体験を元にした漫画「ないマン」を連載中。

ゆるスポーツって例えばこんなもの



イモムシラグビー

専用ウェアでイモムシになりきってプレイするラグビー。基本動作は、ほふく前進が転がるか



スピードリフティング

磁石で接続されたバーベルを、チームでどれだけスピーディに上げ下げできるかを競う。タイミングが合わないバラバラになる特殊なバーベルに、チームの結束力が試される



ハンドソープボール

手にとんでもなくツルツルなハンドソープをつけて行うハンドボール。ボールを落とす度にハンドソープが追加され、試合が進むほどツルツルに

in my HEART

障がい者の方々が描いた感性豊かなアート作品をご紹介します。



シエンタ ウェルキャブ タイプⅢ

華やかな民族衣装が好きです。衣装をととして世界のいろんな人に興味をもっていました。

世界の人は地域によって文化が違っているけれど、人の中身もいろいろなので、

人を描くときにはその人の持ち味を出すことを大切にしています。

本やパソコンを使って研究したり、住んでいる場所や職業や性格などを思い浮かべながら、

体格や表情、身につけているものなどで表したりします。

人には、いろんな人がいるみたいに、魚も色んな種類がいて、お花もそうだと思います。

大工さんも招き猫も風来坊も大仏様も、

いろんな人がのびのびと自分らしく暮らしている世の中が楽しいです。



Artist Profile

木村 昭江 Akie Kimura

1979年生まれ。奈良県在住。知的障がい。2017年に個展「ジャングリヲ」を開催。

趣味はレターセット集めと古本屋めぐり。江戸の暮らし、昭和レトロ、ピカソ、ミュシャ、大阪のおばちゃんなどなど、彼女のアンテナにひっかかったものが、たちまち作品に反映されていく。大好きな本や生活の中から一場面を切り取り、空想のキャラクターを生み出し描く。

hello volunteer

トヨタボランティアセンター情報誌

No. 214 2018 spring

Contents

02 スペシャルインタビュー

世界ゆるスポーツ協会代表 /
スポーツクリエイター / 福祉クリエイター **澤田 智洋**

“ゆるい”をキーワードに、だれもがヒーローになれる社会をめざす



07 in my HEART

木村 昭江/シエンタ ウェルキャブ タイプⅢ

08 ACTION -トヨタボランティアセンターの活動報告-

トヨタグループ・関係会社16社による
東日本大震災被災地復興支援ボランティア活動 行こう!東北へ
災害復興支援

2017年度 災害ボランティアコーディネーター養成講座

2018年3月よりTDRS(トヨタ災害復旧支援)がスタート!

トヨタバリアフリー講座

第10回 トヨタの森20周年企画～視覚障がいの方と一緒に森を感じよう～

第11回 LGBTへの理解を深めよう



12 笑い愛 -社内団体の活動報告-

いわき産業フェスタ「燃料電池を学ぼう」

こども園清掃ボランティア

ちょいボラ! 布の切り分けボランティア

西広瀬小学校 丸根山ピオトープ活動支援



14 縁JOY

社会福祉法人 恩賜財団愛知県同胞援護会 サンホーム豊田



About hello volunteer

本誌は、ボランティアに関する旬な情報を紹介することで、日々の活動を応援し、これからはじめようとしている方を後押しすることを目的に発行しています。ボランティアは決して特別なものではありません。その一歩を踏み出してみませんか。

被災された方々の気持ちに
寄り添い続けて

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手県気仙地区（大船渡市、陸前高田市、住田町）にも大きな被害を与えました。

震災直後、被災地には全国からボランティアが集まりました。トヨタも震災3カ月後の2011年6月から気仙地区でのボランティア活動を開始。震災後2年間は公共交通機関も十分に復旧しておらず、愛知県からバスで片道約14時間をかけて移動し、側溝の泥出しや家屋の片づけ、遺留品搜索などを中心に活動しました。2013年には被災地の多くで災害ボランティアセンターが閉鎖。現地ニーズはハード面からソフト面に変化していき、多くの企業や団体が撤退していく中でもトヨタは仮設住宅での交流、地域活性のためのお祭りのお手伝いや工作教室など、活動の幅を広げていきました。

そして2015年からは陸前高田市のりんご農園でのお手伝いが始まりました。

「被災者の気持ちに寄り添い、励ましていただいたことがだけの支えになったか。ボランティアの皆さんが瓦礫の撤去や側溝の泥出しなど、私たちの手が回らなかったことに携わっていただいた姿が、今でも鮮明に思い出されます。」菊池司さん(69)は、震災当時をそう振り返ります。



(上) 震災から2カ月後の
りんご農園近く
(下) 現在のりんご農園



トヨタボランティアセンターでは、
従業員(家族・OB/OGを含む)を対象に、
地域を取り巻く様々な課題の解決につながるような
自主活動を企画し、実施しています。

トヨタグループ・関係会社16社による
東日本大震災被災地復興支援ボランティア活動

行こう！東北へ

菊池さんは、そのおいしさで名前の知れた陸前高田市の「米崎りんご」を何とか復活させようと、津波が冠水した水田の土を入れ替へりんご園とし、りんご栽培を再開していました。トヨタボランティアは、りんご栽培で最も労力が必要な春の摘果※1、秋の玉回し※2、真赤に熟したりんごの収穫などをお手伝いしました。

ボランティアの多くは農業未経験。「摘果がしっかりとしないと収穫の時の形に影響がある」という菊池さんのお話を伺い、ハサミの使い方を習って、いざ作業へ。緊張しながら「ついついねいに切っていくます。きれいな赤色に色付くようにりんごを回して、太陽の光をまんべんなく当てるようにする玉回しは、力の入れ具合が難しい作業。加減を誤ると、せっかく大きく実ったりんごの実が落ちてしまいます。ボランティアの「あつ」という小さな悲鳴は、りんごを落としてしまった証拠。そのたびにりんご園は笑いに包まれます。「そんなの、気にしないでいいから」と、落ちたりんごは休憩時に菊池さんにむいていただき

ました。「おいしい」「あまーい」「そんなボランティアの声に、「米崎りんごは本格派だけど、海からの潮風を浴びて育つから甘いんだよ」と、菊池さんも誇らしげです。

震災や被災地に関するメディアの報道が減る中、実際に現地に足を運び、まだまだ応援が必要な部分がたくさんあることに気付きます。毎年、トヨタのボランティアが来ることを心待ちにしている方々があります。今年も心のつながりを大切に、活動を続けていきます。

たわわに実がなったりんご農園

※1 花が咲き、結実した後実を摘み取ること
※2 りんごを回して裏側に日光を当てるなどの着色管理

被災地の方より

林の下農園 菊池 司さん

皆さんのおかげで「生涯現役」を決意

皆さんが来てくれることをいつも楽しみにしています。ボランティアとしてお手伝いいただいた皆さんは、最初はおどろいた手つきですが、終わるころにはすっかり慣れた手つきで作業をしてくれました。夫婦二人での小規模な家族農業の中、作業適期に合わせてお手伝いいただけるのは、本当に助かっています。皆さんとの交流のおかげで、年齢を忘れ「生涯現役」で農業に打ち込もうという気持ちになりました。皆さんが「おいしい、おいしい」「りんごを食べることが、いつも励みとなっています。」



手前左から
2人目が
菊池さん



2014年
かき養殖のお手伝い(陸前高田市)



2015年
仮設住宅の方々と昼食交流会(住田町)



2016年
仮設住宅の解体(住田町)



2011年
漂流物の撤去(陸前高田市)



2012年
側溝の泥出し(陸前高田市)



2013年
クルマ工作教室(大船渡市)



日にち:2011年6月~2017年11月(通算57回)
場 所:岩手県気仙地区
(大船渡市、陸前高田市、住田町)
トヨタグループ・関係会社従業員のべ
1,047名参加

りんごの玉回し(陸前高田市)



耳を研ぎ澄まし「目隠しいもむし」体験

第10回 トヨタの森20周年企画 ～視覚障がいの方と一緒に森を感じよう～

日にち:2017年11月12日(日)
場 所:トヨタの森(愛知県豊田市)

38名参加
(従業員18名)

ともに自然を楽しむ

年齢・障がいの有無に関係なく多様な方に、自然を楽しんでいただくことを目的に開催されたトヨタの森20周年企画。参加した従業員は、視覚障がいのある方と二日過ごすことで、目が不自由であってもできることがたくさんあることに気づき、どのようにサポートしたらよいかを考えるきっかけとなりました。年齢・障がいに関係なく、多様な方にトヨタの森を利用していただく場になることが今後の目標です。



みんなで昼食づくり



食事の配置を説明

ボランティアより

デジタル基盤開発部
稲毛 隆之さん



まずは 声をかける勇気から

トヨタがパラリンピックのスポーツカーになったことをきっかけに、社会貢献について考えるようになり、障がいのある方との接し方が分からなかった私ですが、「心のバリア」を払拭できるきっかけになればと思い、今回参加しました。積極的に声をかけお話しすることで、新しい発見があり楽しい時間が過ごせました。

関係先より

NPO法人
視覚障害者センター
つるの里
加藤 藤子さん



視覚障がいの 理解を深めて...

晩秋の青空の下、障がい者と健常者がともに机を囲み過ごした幸せな時間をありがとございました。企画から準備まで、トヨタ関係者の方々には本当に感謝しております。障がい者も健常者もみんなが笑顔になれた、なかなか体験できない貴重な一日となりました。

トヨタバリアフリー講座

第11回 LGBTへの理解を深めよう

日にち:2018年1月20日(土)
場 所:トヨタ会館(愛知県豊田市)

42名参加

受講者より

人材開発部
柳瀬 啓佑さん



みんな違って当たり前

「LGBT」についての知識を深めること以上に、仕事・私生活の両面において、自分と価値観が異なる相手に寄り添うことの重要性を再確認することができました。ジェンダーそのものについての自身の視野が狭かったことを痛感。誰もが生き生きと活躍できる社会をつくる一員として何ができるかを考え、行動に移していきたいです。

みんなが 暮らしやすいって？

「心のバリアフリー」を身につける機会として、昨今メディアなどで取り上げられている、LGBT(性的少数者)への理解を深める講座を開催。誰もが暮らしやすい環境づくりは、ハードソフト面の両方が必要です。人はそれぞれが違うという多様性を受け入れ、寄り添うことではじめて、お互いが助け合える社会の実現につながります。受講者にとって、地域や職場で多様性が進む中、日ごろの言動や振る舞いを改めて考える機会となりました。

LGBTとは?

L	レズビアン	同性愛者 こころの性と好きになる性が同じ 女性的場合、レズビアン 男性的場合、ゲイ
G	ゲイ	
B	バイセクシュアル	両性愛者 女性も男性も好きになる人
T	トランスジェンダー	からだこころの性が異なる人 ※性同一性障害:一定の基準を満たしたトランスジェンダーに対する医学的用語

LGBT:セクシュアルマイノリティを指す言葉としてしばしば使われる
(参考:NPO法人 ReBit)

講座の様子

NPO法人 ReBitより
講師の金澤 恭平さん



ボランティアセンターの運営方法や各セクションの改善点などを話し合う

2017年度 災害ボランティアコーディネーター養成講座

日にち:2017年7月12日(水)～10月8日(日) 全4回
場 所:トヨタ会館・豊田市福祉センター(愛知県豊田市)

56名受講
(48名修了・43名登録)

被災したその時、 あなたの力が必要です

当社は2013年に豊田市と「災害時における支援協力に関する協定」を締結。有事の際に、タイムリーかつ迅速に支援活動ができる社員を養成するべく、2015年より毎年社内での講座を開催しています。今年は43名が災害ボランティアコーディネーターに登録。現在、当社では125名(豊田市全体では306名)の従業員がコーディネーター役として、被災時における復興支援の原動力として期待されています。



運営訓練の様子
「ボランティア保険の
加入について説明」

受講者より

元町工場
レックス統括部
東谷 重男さん



相手を想う気持ちが いちばん大切

2016年の熊本地震で友人が被災したことを機に、災害ボランティアに強い想いを抱くようになり、今回講座に参加しました。ボランティアをする際は、助けてあげるといふ心構えではなく、「させていだいて」といふ被災者への心遣いが大切であるということ、講座で理解しました。「後工程はお客様」といふ普段の業務にも通じる考え方であると感じました。

関係先より

社会福祉法人
豊田市社会福祉協議会 係長
水野 正也さん



いっしょに地域を 守っていきましょう

皆さんが受講していただけたようになったことで、かつては60代が中心だった養成講座の受講者が30、50歳代が中心となり、活気が出ています。トヨタの皆さんは、被災時に設置される災害ボランティアセンターの運営方法をはじめ、常にカイゼンの視点をもつて様々な提案をしていただける非常に頼もしい存在です。

災害復興支援

TOPICS



2018年3月より TDRS(トヨタ災害復興支援) がスタート!

社会貢献推進部では、TDRS(トヨタ災害復興支援 Toyota Disaster Recovery Support)の略)という新しい災害復興支援の取り組みを始めます。発災後に義援金を送ったり、ボランティア活動をしたりするだけではなく、本業の強みを生かしたトヨタらしい支援のあり方を目指していきます。3月から、災害ボランティアコーディネーター養成講座修了生を対象にした実践講座を随時行い、有事の際に活躍できる人材の育成を進めていきます。

災害ボランティア コーディネーターより

高岡工場 組立部
伊豫田 清治さん



トヨタの一員として 継続した活動を

東日本大震災のボランティアに参加した際に車中泊を経験。その大変さを痛感しました。有事の際に備えて車もハイエースに買い換えました。被災者の方たちのことを忘れず継続した活動を実践し、トヨタの一員としてトヨタらしい支援に参加していきたいと思っています。

私たちには、大きな信頼や 期待が寄せられている

私は熊本の被災地にコーディネーターとして行きましたが、現地では被災者とボランティアのニーズをマッチングする難しさを肌で感じました。また、社外の方と直接お話をすることで、トヨタに対する信頼や期待の大きさを実感しました。この震災で感じたことを風化させることなく、今後も社会貢献活動や防災を実践したいと思っています。



各職場 | のべ 約500名参加

日にち:2017年11月~(随時開催) 場所:豊田本社 だんらん ほか



布の切り分けボランティア

終業後
にも



「終業後」にちよいとボランティアしませんか?

会社にいる時間帯でも気軽にできるボランティア活動「ちよいとボラ!」。お昼休みに加え、終業後の活動も始めました!今回は知的障がい者の通所型の就労支援施設「ジョイナスふれあい」の自主製作品「裂き織り」の製作をお手伝いしました。製品販売の収益が施設利用者の自立支援の一助となるため、少しでもスピーディーに製作できるよう「布の切り分け」を実施。今後も定期的に開催していきますのでお昼休みに参加できない方もこの機会に参加してみませんか?

トヨタ
インスティテュート
向山 聖子さん

ボランティア
より

不器用な私でも

業務の都合で昼休憩が予定通りにならないことがあり、終業後ならより参加しやすいと希望していました。就業後の活動を実現していただきありがとうございます。不器用な私は作業に不安がありましたが、事務局の方が「大丈夫ですよ」と優しく声をかけてくださり、楽しんで取り組むことができました。



丸めた布を活用し
利用者が織り機で製作



切った布をボール状に
丸める



着物や浴衣の布を5mm程度の幅に切り分ける

コースターやカード入れ等様々な製品に

広瀬工場

全4回 240名参加(従業員180名)

日にち:2017年6月4日(日)・7月23日(日)・9月24日(日)・11月19日(日) 場所:豊田市立西広瀬小学校(愛知県豊田市)



西広瀬小学校 丸根山ビオトープ活動支援

子どもたちに、生き物に触れる場を
荒れた里山を生き物を観察できる場「に再生する活動として、西広瀬小学校に隣接する丸根山ビオトープの環境整備を2012年から実施。2017年は4回の活動を行い、池の泥さらいや樹木伐採、また、子どもたちに命の不思議さや自然の豊かさを体感してもらおうと、生き物観察カメラの設置などを行いました。参加者たちは目に見えて変わっていく丸根山の風景に喜びを感じていました。



間伐材の利用

豊田市立西広瀬小学校 校長
鈴木 伸明さん

関係先より

命の輝きをこれからも

「丸根山ビオトープ」が学校の環境整備には多大な労力がかかり、子どもたちや保護者、教職員だけでは間に合いません。そんな中、広瀬工場のみならず西広瀬工業団地の方々に協力いただき、子どもたちが安全に楽しく、生き物を探しに丸根山に出かけられるようになりました。生き物にとっても居心地のよい場所になっています。



清々しい気持ちになり達成感を実感

ボランティアサークル、工場や拠点、部署ごとにおいても自主的にイベントを企画し、楽しみながらボランティア活動を行っています。

笑顔

Smile
Together

愛

社内団体の活動報告

電池・FC生技部

57名参加(従業員35名)

日にち:2017年11月25日(土)~26日(日) 場所:いわき産業創造館 LATOV 6F(福島県いわき市)



子ども目線で熱心に説明する講師

協力会社の東洋システム(株)社長の庄司様から当社河合副社長へ吉野復興大臣からの感謝状を代理授与

いわき産業フェスタ「燃料電池を学ぼう」

電池づくりって楽しいね
福島県いわき市は、地域産業の活性化による真の復興を目指し、電動化のキーデバイスである蓄電池産業を集約する「いわきバッテリーバレー」構想を推進。昨年11月には「いわき産業フェスタ」を開催し、当社は、FCバス試乗体験、MIRA-EV車の展示をはじめ、燃料電池づくり体験や蓄電池充電体験、FCラジコン体験など数多くの手作りコンテンツでイベントを盛り上げました。将来のバッテリーバレーを担ういわきの子もたちは、電池の奥深さやモノづくりの楽しさに目を輝かせていました。



協力会社の方より

東洋システム(株)
村上 聡美さん

子どもたちの「一生の宝物」に

子どもたちの真剣な眼差しや水素や電気が生まれた時の驚きの表情、ラジコンカーが動いた時の弾ける笑顔はもう忘れられません。皆様の温かな気持ちによって生まれた今回の体験は、子どもたちにとって一生の宝物になったと思います。たくさん学びと感動をありがとうございました。



電池・FC生技部
富安 城司さん

「お客様第二」で考えた体験教室

部の恩返し活動の環として、燃料電池教室を開催しました。復興活動に取り組む地域の人のひとりが、真の復興に向けて丸となって未来を切り拓こうとする姿に、勇気と感動をもらいました。このような経験は現地でしか味わうことができません。自動車産業は地域のお客様に支えられていることを改めて実感しました。



先進技術統括部

17名参加

日にち:2017年12月25日(月) 場所:豊田市立堤ヶ丘こども園(愛知県豊田市)

先進技術統括部
鈴木 剛さん

「爽快な達成感」をつなげる

職場の先輩から誘われて参加しました。今回、ボランティアを体験し、「やってみよう」という爽快な達成感が生まれました。毎日の仕事で忙しくても、ちょっとした時間ときっかけさえあれば、誰かのためにできることがあると思います。今後、この想いを職場の同僚・後輩へとつなげていきたいと思っています。



豊田市立堤ヶ丘こども園
園長
近藤 朝美さん

子どもたちも大喜び!

環境整備になかなか手が回らず、困っていました。重い側溝の蓋を開き、すみずみまで掃除をしていたが、大変助かりました。当日はクリスマスということもあり、サンタの帽子を被って参加してくださった方々もいらつやうて、楽しい雰囲気となりました。子どもたちもとても嬉しそうでした。

こども園清掃ボランティア

子どもが過ごす環境を美しく
未来を担う子どもたちの手助けとなる活動に取り組むと、園内の側溝の泥だしや砂場の掘り起こし作業を行いました。子どもたちとの交流も深まり、普段、デスクワークが中心の参加者にとって、よいリフレッシュの機会となりました。ボランティア終了後には、年長の子もたちからお礼のお言葉をいただき、参加者全員が元気をもらえました。



20cm以上積もっていた泥がスッキリ綺麗に



仲間内で側溝の泥だし



Volunteer Schedule

4月


4月中旬 2018年度東日本大震災被災地復興支援活動募集開始

未曾有の大災害から7年。復興が進む被災地をあなたも訪れてみませんか。活動場所は岩手県の気仙地区です。

5月


5月上旬 第15回名古屋市障害者スポーツ大会

障がい者の方々と一緒に汗を流しましょう!

6月


6月中旬 トヨタ白川郷自然学校 茅場整備

合掌家屋にはたくさんの茅が必要です。秋に立派な茅が育つよう、みんなで茅場を整備しましょう。

随時



ちよいボラ!

“ちょっと”した時間で“ボラ”ンティアしてみませんか?お昼休みや終業後に気軽に参加できます。職場単位での活動も受付中!

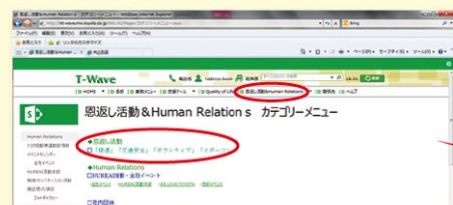
【関連記事はP13を参照】

ボランティアに参加してみませんか?

ボランティア募集情報・講演会情報を掲載中です。ぜひご活用ください!!

■恩返し活動HP

<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/25/Pages/AG/Ongaeshi/Ongaeshi.aspx>



■スマイルゆうネット

トヨタグループ9社〔(株)豊田自動織機・トヨタ自動車(株)・(株)ジェイテクト・トヨタ車体(株)・豊田通商(株)・アイシン精機(株)・(株)デンソー・トヨタ紡織(株)・豊田合成(株)〕で運営しているボランティアネットワークシステム



PC・ケータイからさっそくアクセスしてみよう!

スマイルゆうネット

チェック!

※閲覧はできますが、活動に申し込むにはIDとPWが必要です。お気軽にトヨタボランティアセンターまでお問い合わせください



バックナンバー

トヨタ公式企業サイトからご覧いただけます

はろーぼらんていあ

チェック!



No.213



No.212



No.211



No.210

＝発行＝ トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部
共生社会支援室 社会活動推進グループ
(トヨタボランティアセンター)

〒471-8571 愛知県豊田市トヨタ町1番地
TEL:0565-23-3580(外線) 811-3-3580(内線) FAX:0565-23-5748
<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/98/volunteercenter/SitePages/TOP.aspx>

社会福祉法人 恩賜財団愛知県同胞援護会 サンホーム豊田



ダイヤ班の作業の様様。牛乳パックを再利用し、葉書や封筒などを制作



クリスマス会。音楽クラブの利用者の方々が発表

DATA

代表者 高橋 政人
設立 1999年
住所 〒471-0813
愛知県豊田市野見山町5-80-1
人数 職員:約30名 入所者:60名(男性30 女性30)
連絡先 Tel 0565-88-2001
Mail sunhomejimuin@douen.or.jp

TOPICS

ボランティアを随時募集中

- ①利用者の方々と話し相手や美術・音楽クラブと一緒に参加していただける方を募集しています。活動日は随時。
- ②イベントへの参加や清掃活動、ベンチの補修、洗車などをしていただける方を募集しています。活動日は土日。



ヤギセラピー。ヤギが来て、利用者の方々と一緒に遊んだり、餌をあげたり

緑

えん-じよい

File 02

トヨタ自動車従業員が有志で活動しているボランティアサークルや、協働しているNPO、連携しているボランティア団体の活動を紹介します。

誰もが生き生きと過ごせる場を

サンホーム豊田は、主に知的障がいを持つ方が暮らす入所施設です。利用者の方々は、一般的な日常生活に加え、作業やクラブ活動、個々の余暇活動を行うなどして過ごしています。また、施設からの外出や行事、ボランティアとの交流などを通して、地域の皆さんと障がいを持つ方々との理解を深めています。ぜひ、サンホームの利用者さんと交流してみませんか? ボランティアをしていただける方を、老若男女問わず、募集しております。